



柏陽中だより 3月号

令和7年2月28日(金)

さいたま市立柏陽中学校

岩槻区大字真福寺454

電話 048(798)6655

《学校教育目標》温かい学校 喜びあふれる学校(・自ら学ぶ生徒 ・心豊かな生徒 ・粘り強い生徒)

不易と流行

校長 亀井 隆司

『一月往ぬる二月逃げる三月去る』の慣用句から、『一月は行く、二月は逃げる、三月は去る』と言われていています。気が付けば新年を迎えてから二月が経ち、今年度も残すところ一か月となりました。毎年短いと感じている三学期ですが、今年は特に時の流れが早く感じびっくりしております。学校では残り一か月、年度の良い締めくくりができるよう取り組んでまいります。

少し前になりますが、テレビドラマで昭和の中学教師が現代(令和)にタイムスリップし、不適切な言動で令和の世の中に波紋を繰り返すという番組がありました。私は昭和の時代に丁度中学生でしたので「こんなこともあったな」「今ではとても考えられないな」と感じるが多々ありました。この40年ほどの間で教育現場も大きく変わってきたなと実感します。

また、今年が「昭和」で換算すると100年にあたるということで、「昭和と令和の違い」がテーマとなる特集がテレビで放映されていました。教育現場の違いだけではなく、世の中全体が大きく変化しています。例えば電話機をみても、40年ほど前は固定電話(有線電話)が当たり前で、家庭では黒電話があり、プッシュホンの電話ですら稀でした。そして昭和から平成に変わるころに携帯電話が登場し始め、現代では通話以外にも数多くの機能を持つスマートフォンが主流となっています。しかし、現代当たり前になっているスマートフォンもこれからのAIの発達などにより、どのような発展を遂げるかわかりません。仕事についても、これまでであった職業はなくなっていく、5年後や10年後には全く新しい職業が生まれてくるとも言われています。まさに予測不能な時代とはこのことなのでしょう。

これからの時代を生きていく子どもたちをどのように育てていくか…。いつの時代であってもこれは教育に与えられた使命なのだと考えております。常に世の中の変化を読み取り、必要な知識・情報やスキルを生徒たちに身につけさせることが大切です。本校ではこれからの未知の時代でも活躍できる力を育てていきます。しかしそれと同じように、何年たっても変わらず子どもたちに身につけさせたい力もあります。他人を思いやる気持ちや感謝の心、学ぶ意欲やくじけない心等々、これまでも家庭や学校などで大事にしてきたことです。柏陽中学校はこれまでの教育の良さ(不易)を大切にしながら、未来を生きるこれからの教育(流行)を大切に、努力してまいります。

今年度も大変お世話になりました。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

卒業式に向けて

3月14日(金)本校43回目の卒業式を行います。3年生にとっては9年間の義務教育の締めくくりとなります。卒業までの学校生活を大切に過ごすとともに、これまでを振り返り、ご家族をはじめ今までお世話になった多くの方々への感謝の気持ちを大切にして卒業式を迎えてもらいたいと思います。

卒業生の保護者の皆様におかれましてはお忙しい中とは存じますが、ご列席いただき一緒に卒業生の門出をお祝いできれば幸いです。



